内桶功一さんの神田の思い出談義（その２）　(2012.2.22)

神田錦町の町名が正式になったのは明治 5 年です、明治 44 年に神田が外され、錦町だけになりましたが、昭和 22 年に神田錦町となり現在に至っています。
前回に記しましたが、この錦小路あたりにあった護持院は享保の大火(1717)で焼け落ちました。その跡地と周囲の武家屋敷は、江戸城の間近で起こった火事に驚いた幕府により召し上げられて江戸城に近い側は火除地(延焼防止の地帯)の空地にされたそうです。

第二次大戦では再び焦土と化しましたが、戦後いちはやく復興をとげましたと記されています。
因みに、私の住んでいる三鷹には上連雀と下連雀の地名がありますが、同じく、江戸時代に大火を起こした火元の「神田連雀町」が罰せられ、幕府の鷹狩場であった三鷹に町ごと全てが追放された事に由来します。

水戸黄門と言われた徳川光圀の頃には神田あたりから起こった火事が北は小石川の屋敷まで達し、南は江戸城内にまで達したそうです。
火事と喧嘩は江戸の花と言われ何回も大火を起こしていますが、江戸(東京)と壊滅的な大火災とは古くから因縁があるようで、関東大震災ついには第二次大戦末期の東京大空襲となりましたが、次に予測される直下型大地震や三連動地震では大事にならぬようにと願っています。

美土代町は、最初の本格的洋式石橋で知られる聖橋・御茶ノ水・ニコライ堂坂・小川町交差点・神田橋・日比谷へと続く本郷通りを境とする「電大の反対側で」、神田警察通りと交わる交差点から東(神田駅方向)の区画で、空襲を逃れました。

無くなってしまいましたが。明治時代に建てられた外壁が見事な石とレンガで組み上げられた美しい東京 YMCA 会館　(キリスト教青年会教会)　があった所です。YMCA は人格向上・奉仕の精神による社会活動が目標でした。
本格的なチャペルをもった教会施設が主で・語学校・ホテル・プールを持つ体育館等がありました。
私は小学 2 年から中学 1 年まで少年部に所属して、日曜の礼拝・賛美歌隊・英語学校・水泳部等に通っていました。
小学 4 年の時、米軍日比谷基地の将校が道具を持ち込んで、日本で初めて私達の YMCA 少年部にボーリングを紹介してくれました。

東京電機大学と YMCA の関係
本館前に大学院の建物として 6 号館が完成したのは昭和 34 年です。私達は高校で本館 3 階の教室でした。その当初から地下に食堂が開設されたのですが、メニューに和食は無く、したがって箸もありませんでした。調理を任されたのは　YMCA ホテル部門　です、ナイフ・フォーク・スプーンで食べる料理が出されていた筈です。

当時の食堂と言えば、まだどこも割り箸での食事ばかりでした。然し、これからの人は、正式な場に出たり、外国に行くこともある、仕事で外人とも接する。そんな時に食事で怖気づくいたり、みっともな

い食事マナーでは困る。平素からナイフ・フォーク・スプーン食事の雰囲気に慣れておかねばならない。そんな学校の配慮もあり、近くで洋式料理を短時間に大量提供できる唯一の施設だった YMCA ホテル部門に食堂が任されたと聞いています。高校 3 年の時にはテーブルマナー勉強と称する食事会なんかもありました。